



### 燕市のシンボル「水道の塔」が国登録有形文化財に！

去る平成 24 年 12 月 14 日開催の国の文化審議会（会長・宮田亮平）において、燕市のシンボルとして市民の皆さんに親しまれている水道の塔を、国登録有形文化財とするよう答申がありました。登録は、後日の官報告示をもって正式決定されますが、市内の登録有形文化財は、大河津分水路の洗堰と玉川堂の建造物（4 件）に続いて3カ所・6 件目となり、市所有の建造物では初めてです。

名 称	燕市旧浄水場配水塔（つばめしきゅうじょうすいじょうはいすいとう）
所 在 地	燕市水道町 1 丁目 3 番 28 号
構造及び形式	鉄筋コンクリート造、高さ 31m、直径 10m
建築年代	昭和 16（1941）年
特 徴	浄水場に設置された鉄筋コンクリート造の配水塔。支持台部は円錐台形で八方に付け柱があり、内部には 4 層の床があります。
登録基準	一、国土の歴史的景観に寄与しているもの
概 要	水道の塔は、昭和 16 年に燕町（当時）が本格的な浄水場施設を建設した際に設置された配水塔です。これにより市民生活は豊かになり、産業の発展を支えました。浄水場が道金へ移転したのちも配水塔だけは残り、燕のまちの発展を見守り続けています。 平成 23 年度には大規模な改修工事を実施し、入口部扉など、現在は建設当時に近い姿となりました。



改修した水道の塔（平成 24 年 4 月撮影）

貯水槽部分の歩廊が軽快な印象を与え、また、歴史的な景観に寄与していると評価されています。



入口部を当時（左・青山澄夫氏撮影）のように復原しました（右）。当時あった階段は埋め立てられましたが、階段の親柱が往時の姿を偲ばせます。

## 燕市の文化財保護施策について

教育委員会では、市内の文化財を後世にも伝えていくため、さまざまな取り組みをしています。大規模な修理など所有者だけでは対応が難しい場合は、その経費の一部を助成しています。今回は、平成24年度に市が補助金を交付した事業を紹介します。

### ●新潟県指定文化財（天然記念物）「八王寺の白フジ」雪害対策

八王寺の安了寺境内にある「八王寺の白フジ」は、昨年の2月下旬、積雪により藤棚の1/2近くが落下しました。これに伴ってフジの枝も落下、損傷してしまいました。

フジはすでに春の芽吹きに向う時期であり、時間的な猶予のない中、藤棚の修繕とフジの樹勢回復に取り組みました。

一時は心配されましたが、関係者の努力により、フジは元気を取り戻してきています。

※新潟県指定文化財等保存事業補助金も活用しています。



### ●燕市指定文化財（建造物）「若宮社」強風被害復旧、基壇部修理

昨年4月に発生した突風により、雀森にある若宮社の屋根や入口扉などに被害を受けました。地元の皆さんは、この被害復旧につとめ、また、かねてから希望されていた社殿基壇部きだんの修理も行いました。



### ●燕市指定文化財（民俗文化財）「下粟生津四季生業図絵馬」保存修理

下粟生津の赤坂諏訪神社に奉納された絵馬で、いわゆる四季農耕図絵馬です。

江戸時代以来の時間経過により、生地板の歪みや虫害、画面の絵具層剥落などが生じていました。画面の剥落止め、金具の防錆処理ぼうせいを行うなどの保存修理に取り組みました。

※公益財団法人 文化財保護・芸術研究助成財団の文化財保存修復助成金も活用しています。



いずれの場合も、所有者や管理者の皆さんが「燕の宝」を大切に守り、後世へ伝えていこうと尽力されているためにできることです。

文化財は燕市全体の宝です。地域全体で守っていくようにしましょう。

## 燕市内の文化財紹介

### ●燕市指定文化財（史跡）「米納津隕石落下地記念碑」

今年2月15日（金）、ロシアに大型の隕石が落下したというニュースが、世界中を駆けめぐりました。これに大きな衝撃を受けた方も少なくないでしょう。実は、燕市にも過去に隕石が落下したことがありました。

天保8（1837）年6月11日（旧暦。西暦で7月13日）の夕方、隕石は、蒲原郡富永村（現在の燕市富永）に異様な音とともに落下したと伝えられています。隕石は、永らく富永村で所有していましたが、明治32（1899）年に帝国博物館に寄託されました。このとき、当時の村名をとり「米納津隕石」と呼ばれ、広く知られるようになりました。

重さは31.65 kg、隕石の種類は球粒隕石に分類され、1個体の隕石としては、現在でも全国第3位の重量をもつ貴重な隕石です。現在、米納津隕石は東京の国立科学博物館で展示されていますが、燕市では、そのレプリカを長善館史料館（粟生津）で見ることができます。

記念碑は、昭和37（1962）年、富永地区が耕地整理を機に提供した土地に、地元の天文研究者である故・草野<sup>いわお</sup>馨氏により建てられたものです。草野氏は、「米納津隕石は落下時に多くの村民により目撃され、落下の日時、方向、落下状況、落下地点がはっきりわかっておりますので、貴重なものであります。小生はこのように学問的に貴重な隕石（中略）の落下地点が消滅することを憂い、そこに標識を立てることを年来念願として参りました。」（『吉田町文化財報告No.2 米納津隕石物語』より）と、その思いを語っており、隕石落下の出来事を地域で大切にされてきたことが分かります。

実際の落下地は、碑よりも数十メートル西にいったところといわれています。この地に立つと、当時の人々の衝撃がいかばかりかと偲ばれます。

<参考文献> 『吉田町文化財報告No.2 米納津隕石物語』吉田町教育委員会 1937



長善館史料館で展示されている隕石のレプリカ



米納津隕石落下地記念碑（富永地内）

## 燕市文化財調査審議会について

燕市文化財調査審議会は、教育委員会が文化財の指定や保護などのさまざまな施策について諮問したことに関して調査審議し、専門的な視点で意見をあげる諮問機関です。

日頃の市文化財保護行政に対する意見などをいただいています。

平成24年10月2日開催の燕市文化財調査審議会では、市内の史料館のうち、教育委員会が所管する分水良寛史料館と長善館史料館について視察し、その展示や活動内容についての意見を伺いました。

《意見》

- ・少ない職員体制の中、工夫して展示している様子が見てとれるが、展示品が混み合いすぎている。
- ・照明に配慮が必要ではないか。資料保存の観点から、調光できるもので対応すべき。
- ・ひとつの館だけでなく、他の史料館とも交流、連携して展示運営にあたると良い。
- ・良寛史料館は、歴史展示室へ来館者を誘導することが課題。

⇒ ご意見を参考に、よりよい史料館展示に努めてまいります。



…など

## 史料館 春の展示案内

- 良寛史料館 春の特別展「良寛墨宝展」平成25年4月23日～5月26日  
国・県指定文化財を含む良寛の書跡が数多く鑑賞できる展覧会です。
- 長善館史料館 「長善館時代の鈴木虎雄」平成25年4月2日～6月23日  
少年時代の鈴木虎雄博士を垣間見ることのできる展覧会です。

## 高橋久二さん（燕市文化財調査審議会委員）平成24年市功労者表彰

高橋さんは、旧吉田町の頃から文化財調査審議会委員を務め、市内の文化財保護に尽力されてきました。また、吉田郷土史研究会にも所属し、まちの埋もれがちな歴史や民俗を調査・収集して記録する作業を地道に続けられています。

このたびは、永く市の文化財保護行政を支えてこられた功績を称えての表彰です。

## 水道の塔 四季の写真コンテスト

昨年からお知らせしていた写真コンテストを開催します。

作品の応募期間：平成25年5月7日（火）～31日（金）

※詳しくは、市ホームページまたは、燕市教育委員会生涯学習課文化振興係（63-7002）へ

